

2024年度の県内の再生可能エネルギー導入量はエネルギー需要の59・7％に達し、過去最高を更新した。大規模太陽光発電施設（メガソーラー）を中心に再生エネルギーが進み、前年度を4・8％上回った。ただ、メガソーラーを巡っては環境への影響などの課題が顕在化しており、40年度にエネルギー需要の100％を再生エネルギーで生み出すとの目標達成に向けて県は、風力発電の整備や次世代型太陽電池の利用拡大なども積極的に進める考えだ。

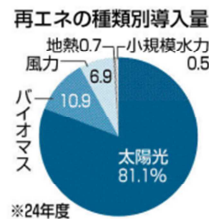
県内の再生エネルギー導入実績は、増の4535メガワットとなり、大規模水力を除いた種類の発電能力は（キロワット）63メガワットの約12倍に達した。再生可能エネルギーの先駆けの地」を目指す本県は東京電力福島第1原発事故以降、メガソーラーや風力発電施設の整備、住宅用太陽光発電の普及が進んできた。一方、エネルギー需要は省エネ技術の開発などで減少が続き、再生エネルギーの割合は年々上昇してきた。24年度の再生エネルギー（大規模水力を除く）は前年度比57・4％（14・5度）で100％を上回った。

一方でこれまで再生エネルギーを先導してきたメガソーラーの整備は転換期に差しかかっている。震災後に進んだ開発で適地が減っている上、環境への影響が問題になる事例が県内外で増加しているためだ。県は再生エネルギーは安全や環境に配慮して進めることが前提（エネルギー課）としており、メガソーラーに依存した現状では「再生エネルギー推進ビジョン」に掲げる「40年度に再生エネルギー100％」の実現は見通せない。

このため県は本年度、阿武隈地域での風力発電施設の整備を進める方針。また、薄くて曲げることができ、さまざまな場所に設置できる次世代型「ペロブスカイト太陽電池」の実用化に向けた取り組みも加速させる考えで、年度内にモデル的な設置の拡大に向けた調査を開始する。

19日の9月定例県議会では、自民党の鈴木智議員（いわき市）の代表質問に五月女有良企画調整部長が答えた。

2024年度の県内の再生可能エネルギー導入量はエネルギー需要の59・7％に達し、過去最高を更新した。大規模太陽光発電施設（メガソーラー）を中心に再生エネルギーが進み、前年度を4・8％上回った。ただ、メガソーラーを巡っては環境への影響などの課題が顕在化しており、40年度にエネルギー需要の100％を再生エネルギーで生み出すとの目標達成に向けて県は、風力発電の整備や次世代型太陽電池の利用拡大なども積極的に進める考えだ。



県内再生エネ率59・7%

大規模太陽光に課題

24年度、過去最高

▲ 9月20日 福島民友新聞掲載

2024年度の再生可能エネルギー導入に関して、記事から分かることを抜き出してまとめてください。

メガソーラーの整備に関してどんな問題があり、県はどのような方針で「再生エネ」を進めていこうとしていますか。

地球温暖化対策として脱炭素社会の実現が求められていますが、この記事から皆さんはどのようなことを考えましたか。